

会長メッセージ

「90周年記念大会 順調に進んでいます」

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年辰年。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になつて大きく成長し、形が整う年だといわれています。また、たつ（竜、龍）は十二支の中で唯一空想上の生き物で、竜は麒麟、鳳凰、亀とともに四霊と呼ばれ、竜は淵にすむ神秘的な動物で、水や雨に関係するとされています。「竜」のつく言葉では「竜竜点晴」や「登竜門」などがあります。その登竜門は黄河上流の渓谷、竜門を登り切った魚が竜に変わったという伝説から成功への第一歩となる難関という意味があるとのこと。今年はこの辰にあやかつて難関を突破し、飛躍の年になることを願っています。

昨年、本会創立90周年並びに公益社団法人設立12周年記念全国吟道大会は『未来につなぐ「和のこころ」』をテーマに、関西地区大会を10月に、西中国地区大会を11月に開催いたしました。それぞれの地区の先生方、会員の皆さまの絶大な協力のおかげをもちまして、盛會裡の中に終えることができましたこと、厚く御礼申し上げます。さらに、本年は2月に東京東海地区、3月に九州地区と開催を予定しております。開催地区の先生方、会員の皆さま方よろしくお願いたします。



総本部会長 古田 哲壮

吟界は会員確保に厳しい時代となっており、先行きに不安を持っているところですが、日本文化のなかで、俳句の世界はそんなことはないようです。というか俳句は全国いや世界中で詠まれ、haikuとして国際交流に貢献されています。

そのなかで、芸能人が投句した俳句を夏井いつき先生が査定し、ランキングを発表する「プレバト」という民放テレビ番組で取り上げられているのも大きな一因かと思われます。この「プレバト」人気で、俳句は身近なところで広がっているように思います。

そんな中、関西地区大会でご出演いただいた俳句結社「雲の峰」の皆さまありがとうございました。詩吟と俳句のコラボに取り組ませていただきました。俳句を口ずさみ詩吟も、ともに紡いでいきましょう。

詩吟の魅力はというと、著名な作者が残してくれた漢詩（名詩）や和歌・俳句・新体詩などを伝統的旋律にのせて吟じること、作者の心情に触れて知らず知らず文学や歴史を学び、勇気を与えてくれます。また、吟者の鍛えられた吟声は聞く人の心の琴線に触れ、感動をいただきます。総本部が主催する決勝大会をはじめ愛国詩吟総連盟の吟士権大会など観にいかれ、生の吟詠を聴いていただいたらと思うところです。

本年が皆さまにとって佳い年でありますようお祈りいたします。